

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 26 年 6 月 30 日現在

機関番号：32615

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2012～2013

課題番号：24720133

研究課題名(和文)ウィリアム・ワーズワースの詩における古物研究

研究課題名(英文)Antiquarianism in the Poetry of William Wordsworth

研究代表者

SIMONS Christoph (SIMONS, Christopher)

国際基督教大学・教養学部・准教授

研究者番号：80527143

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 1,200,000円、(間接経費) 360,000円

研究成果の概要(和文)：本研究の目的は(1)ウィリアム・ワーズワースの詩における古物研究の影響を調査すること(2)彼の生涯と作品における古物研究とワーズワースの旅行の関係を詳しく調べることです。研究ではワーズワースの詩には全体を通して古物研究の影響がみられるが、その価値については矛盾する表現があることが分かりました。また、彼の旅行と古物研究に対する態度の間に動的関係が存在すると結論付けました。今後の研究では、古物研究のみならず、スコラ哲学・自然哲学(近代科学)・「巨匠」の性格といった観点から、ルネッサンス～18世紀にかけて興った知的文化でのワーズワースの詩の役割をより広く解明する必要があります。

研究成果の概要(英文)：The main research goals were to (1) demonstrate the influence of antiquarianism (ancient & medieval history and literature) on the poetry of William Wordsworth; and (2) demonstrate the connection between antiquarianism and Wordsworth's travels (1790-1837) in Wordsworth's life and works. The research concluded that the influence of antiquarianism on Wordsworth's poetry continues throughout his work, but presents conflicting representations of the value of antiquarianism at different stages of his writing. The research also concluded that a dynamic relationship exists between Wordsworth's travels and his attitudes towards antiquarianism. Further research should illuminate the wider role of intellectual culture from the Renaissance to the eighteenth century on Wordsworth's poetry, including not only antiquarianism, but the related topics of scholasticism, natural philosophy (modern science), and the character of the 'virtuoso'.

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：文学・英米・英語圏文学

キーワード：英文学 ウィリアム・ワーズワース ロマン主義 英国詩 古物研究 大陸旅行

## 1. 研究開始当初の背景

研究代表者の過去の研究(博士論文含む)ではいずれも、ワーズワースの詩におけるインスピレーション、方法論、詩的素材に古物研究がどのように関わっているかを調べてきました。研究開始時点では、詩人の手法と18世紀英国の古物研究の類似性を扱っていますが、ワーズワースの詩には、古物研究だけでははかれない「自然と人間社会の統合」という独自の視点があること、またこれまでは、ロマン主義時代の古物研究に関する調査が不十分であったことにも気づいていました。

したがって本研究においては、ワーズワースの一部の作品にとどまらず、全作品を通じた古物研究の影響を詳しく調査し、さらに、ワーズワースが自然から受けた影響を調べるため、彼が生涯を通して頻繁に行っていた旅行をたどり直すことを立脚点としました

## 2. 研究の目的

本研究には二つの主目的がありました：

- (1) ワーズワースの詩における18~19世紀の古物研究の影響を調査すること。
- (2) ワーズワースの詩におけるワーズワースの旅行(1790~1837年)と古物研究の関係を詳しく調べること。

## 3. 研究の方法

- (1) 平成24年度には本研究は図書館の調査に基づいていました。(a)ワーズワースの人生と詩(出版)に関連して1790~1842にかけての英国古物研究を歴史的に概観することから始めました。(b)それからワーズワースの詩における(特に「Lyrical Ballads」(1798)から「Poems, Chiefly of Early and

Late Years」(1842)という詩集に渡って)古物研究の典拠を詳しく調査しました。学会での講演と論文では、短期間の研究成果を発信しました。

- (2) 平成25年度に二つの目的がありました。(a)ワーズワースの詩と古物研究との間の複雑な関係を理解するために理論的枠組みが確立しました。(b)ワーズワースの「Memorials of a Tour in Italy, 1837」という詩集における古物研究の影響を理解するために、イタリアの古物場所で現地調査を実施しました。学会での講演と論文、及び出版した本の章で成果を発信しました。

## 4. 研究成果

研究成果は三つの主要部分に分かれています。

- (1) 古物研究がワーズワースの詩に与える影響に関する研究成果
- (2) ワーズワースの詩における彼の旅行(1790~1837)と古物研究の関連(特に1837年のイタリアでの彼のいわゆる「大陸旅行」の調査)に関する研究成果
- (3) 上記の成果に基づいた今後の研究の方向性。

- (1) 古物研究がワーズワースの詩に与える影響に関する研究成果

(a) 有益で理論的な枠組みの開発。Walter Jackson Bate、Allan Bewell、Peter Burke、Basil Willey、Jonathan Wordsworthのような学者の研究を引き継ぎ、1790年から1842年にかけての時期にワーズワースの詩とイギリス古物研究の関係に関する歴史的概観をより明らかにするために、伝統的な「歴史主義」の枠組みを使用しました。次いで、ロラ

ン・バルト、ミハイル・バフチン、ミシェル・フーコー、Jonathan Culler のような学者の研究を引き継ぎ、ワーズワースの詩における古物研究の多様な表現を探るために「構造主義者」と「ポスト構造主義者」の理論の組み合わせが最適な理論であると判断しました。

(b) ワーズワースの詩における古物研究に関する通史。本研究は彼の詩の中で歴史の役割を少なくし、自然の役割を拡大するために、ワーズワースが詩における古物研究のイメージをよく使っていると結論付けました。同時にこういう古物研究のイメージは（啓蒙思想（エンライトメント））や科学的方法やフランシス・ベーコンの作品に関連（かんれん）している新しい科学的古物研究の方法（約1600～1800年）を支えています。

(c) ワーズワースの「Prelude」（序曲：詩人の魂の成長）（1805版）の叙事詩（じょじし）における古物研究の影響。「Prelude」の第5章と第6章の分析によってワーズワースの古物研究イメージが啓蒙思想前のアリストテレスの「スコラ学」と現代科学の間の対立を表しているという結論に至りました。これらの結論は学会で発表しました。

(d) ワーズワースの「Excursion」（逍遙）（1814版）の叙事詩（じょじし）における古物研究の影響。「Excursion」の叙事詩に関する分析はワーズワースの古物研究のイメージが彼の人生を通して古物研究に関する三つの異なる観点を保持していることを示していると結論付けました。それぞれ観点が叙事詩の中で三人のキャラクターで夫々（それぞれ）を表わしています。これらの結論は学術誌で発表しました。

(e) ワーズワースの「Ecclesiastical Sketches」（教会のソネット）（1822版）

の歴史的ソネットにおける古物研究の影響。ワーズワースの「Ecclesiastical Sketches」に関する分析によって、ワーズワースの古物研究描写がワーズワースは生涯の成果や名誉を優先させるために、詩の分野での公の歴史評価を操作したことを示しているという結論に至りました。これらの結論は「Wordsworth Summer Conference 2013」という国際学会で基調講演として発表されました。この講演は「Grasmere 2013」という論集に出版されることになりました。

(2) ワーズワースの詩における彼の旅行（1790～1837）と古物研究の関連（特に1837年のイタリアでの彼のいわゆる「大陸旅行」の調査）に関する研究成果

(a) 文献の調査はワーズワースの1837年に大陸旅行が衰退する18世紀の古物研究大陸旅行と新しい19世紀のヨーロッパツアーの組み合わせを表していると結論付けました。

(b) 更に、ワーズワースの大陸旅行詩は個人的古物研究の関心を西洋古典の歴史と美術史の組み合わせとして示しています。本研究は、ミシェル・フーコーやWalter Houghton等学者の理論に次の、ワーズワースの大陸旅行詩における古物研究の描写がスコラ学と、17～18世紀の現代歴史学の間に対立だけでなく、古代及び現代の古物研究家と、いわゆる「巨匠」と言われる人物の間に対立をも表わしていると結論付けました。

(c) イタリアで古物場所の現地調査は実質的研究成果（特にウンブリアの修道院とピサの古物とコモ湖等での発見に基づいて）が得られました。イタリアの現地調

査はワーズワースの古物研究に関する関心が19世紀の古物研究知的文化よりも個人的な好み、個人的な歴史に依存すると結論付けました。

- (d) 特に、ワーズワースはローマやフィレンツェのような有名古物がある主要都市よりウンブリアの修道院・ピサ・ジェノバ・コモ湖の古物と環境の方を好みました。これら成果は「The Oxford Handbook of William Wordsworth」という論集の中の「Itinerant Wordsworth」(放浪者ワーズワース)というタイトルの章で発表しました。この章はワーズワースの古物研究の関心と生涯の旅行間に強い関連が存在するという議論があることを強調しています。

- (3) 上記の成果に基づいた今後の研究の方向性

将来研究の主目的はワーズワースの詩における二つの古物研究に関する関連を明確にすることです：

- (a) ワーズワースの詩における古物研究の表現に対する1837年以前のワーズワースの旅行の影響
- (b) ワーズワースの詩におけるスコラ学と現代(17～18世紀)ベーコン派の科学の間の未解決の対立

## 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計 5 件)

Simons, Chris, 'Cameraman', *Oxford Poetry* (査読無), 100<sup>th</sup> anniversary

issue, 2014, 63.

Simons, Christopher,

'Antiquarian Landscape and Allusion in Wordsworth's *Excursion*', *Humanities: Christianity and Culture* (査読無), Issue 45, 2014, 159-213.

Simons, C. E. J.,

'Itinerant Wordsworth', *The Oxford Handbook of William Wordsworth* (査読有), Oxford University Press, 2014, 97-115.

Simons, Christopher, 'Wordsworth in Geste: Dissolving the Ecclesiastical Sketches', *Grasmere 2013: Selected Papers of the Wordsworth Summer Conference* (査読有),

Humanities-Ebooks, 2013, 88-120.

Simons, Christopher, 'To Things Unknown and Without Bound: The Travels of William Wordsworth', *Humanities: Christianity and Culture* (査読無), Issue 44, 2013, 1-41.

[学会発表](計 2 件)

Simons, Christopher, 'Wordsworth in Geste: Chivalric Allegory and Ecclesiastical Sketches', *The Wordsworth Summer Conference 2013*, 2013-08-09, グラスミア、イギリス。

Simons, Christopher, 'Wordsworth and Emily Dickinson: Antiquity and Style', *The Wordsworth Winter School 2013*, 2013-02-22, グラスミア、イギリス。

[図書](計 0 件)

[産業財産権]

出願状況(計 0 件)

取得状況(計 0 件)

〔その他〕

ホームページ等

なし

6．研究組織

(1)研究代表者

サイモンズ クリストファー (SIMONS,  
Christopher)

国際基督教大学・教養学部・准教授

研究者番号：80527143

(2)研究分担者

なし

(3)連携研究者

なし